次世代の免疫化学検査技師に必要な知識、技術とは

若手の立場から考える

◎河西 輝英[1)]、麻野 秀一[2)]、齊藤 健太[3)]、高橋 光一郎[4)]、鎌田 美穂[5)]、北薗 竜彦[6)]、五十嵐 麻衣[7)]
日本赤十字社和歌山医療センター[1)]、学校法人 大阪医科薬科大学 大阪医科薬科大学病院[2)]、公立甲賀病院[3)]、公益財団法人天理よろづ相談所病院[4)]、関西労災病院[5)]、京都第二赤十字病院[6)]、福井県立病院[7)]

【はじめに】

近畿 7 府県の若手 7 名に＜免疫化学分野の今後を考える＞を題目としたアンケート調査が実施された。3 つの大きなテーマとして「免疫化学検査のモチベーションアップ」「これまでの役割と、これからチェンジしないといけないこと」「免疫化学検査技師とデータの付加価値を目指して」の内容に沿ったキーワードを基に意見を出し合った。

【アンケート結果】

事前アンケートより得られた意見をテーマごとに述べる。

①「免疫化学検査のモチベーションアップ」

免疫化学分野に対しては「自動化が進んでおり分析装置にかければ正しい結果が出ると思われがち」「精度管理されていて当たり前」など、マイナスなイメージを持っていることが分かった。モチベーションアップに繋げるために必要な要素としては「データを読むスキル」「精度管理などに必要な統計学の知識」「二級試験や、その他に何か資格を取りたい」などの意見が出た。

②「これまでの役割と、これからチェンジしないといけないこと」

通常業務から考えると「試薬検討はメーカーに頼らず自分たちでやるようにしていく」「結果を報告するだけではなく、診断や治療のサポートになるような働きができたら…」など、意欲的な意見が出た一方で、これからの将来を考えると「自動化や AI がどうなっていくのか、私たちの仕事がなくならないか不安です」というような意見も出た。

③「免疫化学検査技師とデータの付加価値を目指して」

日常業務以外に一体何が出来るのかと考え、「検体検査のうち、検査前から検査後までの管理について一番多く携わっている我々が、検査の正しい知識を他職種の方々に教育、アドバイスする」「患者さんへ糖尿病教室や市民公開講座、検査説明が出来るのではないか」など、他職種は勿論、患者さんと接する機会を持ちたいという意見が出た。また、「今般のコロナ事情から、市民公開講座や検査説明などにウェブ・リモートなどが活用できるのではないか」といった意見も出た。

【まとめ】

モチベーションをアップさせるためには知識や技術が必要であるが、一人だけでそれを取得するのは難しいと考える。また、「こんなことをやってみたい」と思っても、それを実行するために必要なコミュニケーションの機会が多くないのではないかとも感じられる。そこで重要になってくることは、先輩方から教えてもらうこと、協力してもらうこと、そして相談しやすい環境を構築することだと考える。

私たちの希望として、先輩方に「知識、情報の収集の仕方」「どんな資格が有用となってくるか」「将来に向けて何をしておくべきなのか」など、ご教授いただければ幸いである。

【結語】

若手から中堅・ベテランの先輩方へ意見を発信し、話し合いをすることで、これからの免疫化学検査をより良いものにしていきたい。

連絡先：072-422-4171（内線：1641）